

六稜會報

第三号

昭和47年3月20日

発行

●532東淀川区十三南之町1
大阪府立北野高等学校内

六稜同窓会

電話 (06)303-5661(代)

郵便局振替口座番号

大阪 68025

挨拶

北野高等学校長 浦野博夫
六稜同窓会会長



陽春の候、会員の皆様には益々ご清勝の御事と存じ上げおよろこび申し上げます。本校は明治六年四月二十日、欧学校として設立され、昭和四十八年で百周年を迎えることとなります。北野百年の歩みは、そのまま大阪府若わが國の中等教育の歴史そのものであり、まことに意義深いものと存じます。

昨年末の理事会を経て、理事の増員を含めて新理事委職の運びとなり、百周年を迎える基盤も整ったものと存じております。明年秋(予定)の百周年記念の諸行事につきましても、学校同窓会相互の関連を、より意識深く、より教育的に、より盛大に行いたく存じております。現在までの常任理事会・理事会等の席上其の他で承りましたご意見等(別掲)に対する諸準備並びに必要な経費の用意等は遺漏のないよう配慮しておりますが、本年は更により多くのご意見を承り、より具体的に押し進めて参りたく存じておりますので、先輩諸彦の一層のご協力ご支援を心からお願ひ申し上げます。

なお、学校としましてはかねてより、この画期的な時期に際し、本校百年の歴史を集大成した校史を編纂しておくことこそ、またとない記念になるものと思ひ、数年前より企画準備して参りましたが、関係諸先生(村川、深江、柏尾、水落の諸先生)の熱意と努力、併せて全職員のご協力によりまして、目下順調に完成に向つておりますことをご報告出来ましますのは、大きな喜びであります。

ひるがえつてまた、過ぐる年以來の全国的な学園紛争の中で、母校のことにつきましても常にご心配をいたして参りましたことと存じますが、幸いにして本校は大過なく今日に至ることが出来ました。これもと

より職員一同の適切な指導と生徒諸君の自律性とはまた父兄の方々のご理解とご尽力とによるところと存じますが、そのことはまた先輩諸兄の築いてこられた光輝ある伝統の力に負うところでありその賜とも考えられるところであります。まことにご同慶の至りに存じますと共に感謝の念を禁じ得ません。今後とも一層のご支援ご鞭撻の程お願い申し上げます。

会員各位のご健勝を心からお祈り申し上げます。ご挨拶と致します。



田島 岡島吉郎先生

同窓の皆様には益々御健祥の事と存じます。特に年度幹事、理事の方々には何かと面倒な用件を御頼し恐縮します。今後とも

同窓会係主任 佐賀真一
(四十六回昭八卒)

た。伝統とはよくしたもので、自分でせよという北中式が自然に出ています。もともと戦前長く自由競争で入学して来て五年なり四年なりを送るのでは無く、学区内から楽に入学して三年を過す昨今の後輩達には自分でやってみよと云われても、甲にはよいが乙には分らず、丙には満足出来ても丁には不適當であるという弱点が当然起つて参るわけです。それに世の中が恐ろしいほど変動し、之が真正面から生徒を巻き込もうとするのですから学ぶ方も、教える側も戦前とは別の緊張感が出て来ます。教育に緊張は当然ですが、見当違いの方向へそれる生徒も時々はあるわけです。何しろ三年間一度も教えない生徒が出たり、顔の分りかねる先生があるという現状(多人数の為)では、最新の教育工学を導入しても解決はまず不可能ではないかと思われまます。

更に思いがけず共学に成った為(後輩に女生徒が出来ました。それも二十年を経過しました。之は北野に限らず公立校は皆その通りですが、古い方々には思いがけぬ事です。本校では初めから男三に對し約一・五位から一という比になつていたので、貴重品?とまではいかずとも珍らしいとは申せましよう。一体どうなることかと最初は心配されましたが、案ずるよりは何とやらの俗語通り、すっかり溶け込んでいます。別に女だからという特別扱いは無いのですが、六稜流の卒業生になつています。婦人は男性より学歴意識が高いのが例ですが、後輩の女生徒は之が無いらしく、其のために世の中に出ては協調、調和が無理無く進められていくかと思ひます。もつとも男女の本性の相異は変えられませんが、今後ど

のような特徴が出て来るのか、楽しみの一つが増えたとは申せましよう。

戦後はあらゆる家庭、あらゆる環境、あらゆる能力を持った後輩が入学し、三年在学し、卒業して行きますが、どの期の後輩も、六稜らしくなつて行っているのは何が関係しているのか、くどい様ですが伝統は消えぬものだと思ひ、又新しい人々がよりよい伝統を作り上げて行く事だとも考えられます。

六稜同窓会も大きくなりつ、あります。樹の様に根も太く、枝も繁り、年々葉は新しく入れ代るのですが、大きくなればなるだけ根も深く、枝も太く、更に全体の樹勢をびつたりまとめあげる輪とでも申すものがいよゝ必要になります。所謂樹勢が正しいこと。之が大切かと思ひます。

卒業にあたって

八十四回昭四十七 明度陸治

卒業にあたって何か感想を書くように依頼されたが、何分急なことなので、思ひついたらまペンを走らせることにする。

月並みなようではあるが、この三年間は光陰矢の如くに過ぎ去つてしまつたようである。実際のところ、入学して三年間経過したため、下から押し出され何となく卒業するといつたところであるが……しかし、この学校に於ける三年間は、勉学や運動の部門に於いても、良い試験の場であつたように思う。人間は、誰しも楽をしたいのいやまやまであるが、安易な道ばかりを選ぶべきではないと思う。やはり、人生に於ては、常に刺激を与えられるべきである。この意味に於いても、この三年間の高校生活は、価値あるものであつたと確信しているのである。入学以降痛感したことといえば、周知の如く「現実の厳しさ」である。人は、自己に甘んじて生活している限り、そこには、何らの成長は見い出せないのである。何事に於いても、自己に限らず他人に對しても甘えがあれば、勝負をする以前の段階で敗北が決定しているのも同然だと思ふ。どうも悟りきつたようなことを書いてしまつたようであるが、實際自分自身耳の痛いことなのである。人は誰でも、未来への期待なり希望なりを持つてゐることは思うが、それは、現在の自分を抜きにしては決して実現されるものではない。現在とは、過去の経験の上に成り立っているものであるから、未来についても当然現在が基礎となるわけである。何を行うにしても、基礎ができていれば、あとは、実践における努力と忍耐である。これを怠ることは、自己の意に反するばかりでなく、未来をも打ちくだく結果となる。そうならない為にも、この三年の間に身につけた向学心をいつまでも失わずに持つてゐることができればと思ふのである。卒業後の自分自身については、いったいどうなつていくのか、今は見当もつかないことであり、これは、もう既に運命づけられてゐるものなのかもしれない。しかし、自分自身としては、良い方に解釈したいものであり、又實際そうであるように努力するつもりである。僕もこの六稜同窓会の一員たる資格を得ることになつたのですが、長い歴史をもつ我が校を理解するには、まだまだこれからも先輩方の良き御指導を期待する次第です。



公認50mプール 昭和46年3月竣工

会員のページ

四十回昭二 片山 勇

無医村での医療托鉢、十三年間、御縁があつて、故郷の海岸、河野村の診療所に、この正月から勤めることになりました。毎日毎日が充実した生活でこの上なく愉快です。西洋医学だけに偏ることなく、東洋医学、特に針灸も活用して、患者さんによろこばれています。

四十一回昭三 前田 幸夫

四月一日、在京の同期生に、学会東京のゲストを迎えて、六稜昭三会を開きました。遺囑を迎えて、昔の友のこいしい年頃にわたつたとしみじみ思いました。

四十三回昭五 太田 正

間違って医者になつたが、軍医として第一線部隊野戦病院附、終戦後病院づとめ開業、次いで衛生行政二十年、これはいい勉強になつたが、最後の御奉行は国立病院で管理業務、随分いろいろの事をやって来ました。しかしまだまだ働けます。

四十三回昭五 旧職員 小寺 幸正

今春より帝女教育(大学・短大・高校にまたがって)に専念し始めて居ります。六稜魂を保ちつつ自然と人間の尊重調整の倫理に立脚して蒸陶する所存です。各恩師諸先生の御指導の賜と拝謝しつつその報恩につくすつもりです。旧友諸氏特に昭五会の

御活躍を祈ります。

四十五回昭七 森島 重勝

去る三月二十七日六稜四五会の四十六年度例会を行なう。森繁君も久々に顔を出し、知床旅情と母校北野の校歌新曲を歌つてくれたのは印象的でした。

集まるもの三十二名来年は卒業四十周年を盛大に、一人でも多く誘つて集まることを確認した。幹事は高木、畑中君。四十六年幹事、森島、有山でした。

四十七回昭九 吉川 正吾

私は昭和四年入学、八年四年修了ですが前半は北区芝田町、後半は現在地で過しました。思い出といえば昭和六年の校舎移転で椅子書籍などを抱いだ生徒の長蛇の列が十三橋を渡つたとき一大壮観です。

四十七回昭九 余田 博通

博多一東京一北京一張家口一加古川一明石一生駒一広島一塚口一箕面と転々としたが、箕面では既に十五年目です。箕面六稜会というのができて、年二回会合をしています。宝塚線で淀川を渡る度に、北野から十三へ博物標本を持って、十三の橋をあるいて渡つた事を思い出します。

四十七回昭九 太田 亮一

二年半のブラジル国リオ・デ・ジャネイロ駐在から七月七日帰国し、従前通り東京四谷の海外移住事業団本部に勤務しております。

四十八回昭十 岩尾 一

ソノシートの応援歌を聞きました。あの歌は私が一晩で作詞し、山口高校の応援歌の節を借用して初めて昭和九年の天中戦から使つたものです。

天中戦には勝りましたがそのあと天理中に惜敗し皆で泣いたのを思い出します。

五十回昭十二 名取 康

来年で卒業三十五年目となります。五十回卒業なので互励会として仲間同志切磋琢磨しています。北野出身には医者が多いのですが、兼屋も案外いるようです。同期では武田の本多君、増田君、田迎の奥田君、和光堂の北村君など、東京でも互励会に仕々たる面々が活躍しています。

五十六回昭十八 松田 保清

新淀川の畔に昔日のままの校舎を望見しつつ、修学旅行中の引率生徒に懐旧話を語ること七・八回。時には校歌を低吟することもあり、故郷は遠きにありて想うもの一同窓諸兄の御健闘と母校の栄光を祈る。

六十回昭二十二 尾形 順一

四十五年八月に東京から名古屋に転動しました。東京では東京六稜会に出ています。名古屋はどうなっているのでしょうか。

六十二回昭二十四 坂本 彬

何と云つても、戦時下の想像もされぬ生活に、今でも非常な懐かしさを感じています。昭和二十年五月十一日より二十日までの十日間、和歌山市郊外のみかん山に本土決戦用の壕を掘りに行った時の記憶が未だに生々しく思い起されます。先年その時の宿

舎となつた農家を訪ねて写真もとつてきました。

六十四回昭二十七 小島 清彦

戦後の二十一年あこがれの北野中学に入学、二十三年の男女共学の強制交流により大手前へ移つたが、四年過ぎた大手前より二年一ヶ月だつた北野時代の方がなつかしく思います。二十三年一十五年選抜野球で甲子園へ応援にかけつけたことなど。この度会員の仲間入りしたのをうれしく思います。

六十四回昭二十七 石山(松浦)美奈子

卒業して二十年経ちました。高校生の息子に英語を教えることが出来ますのは在学中、ずいぶん鍛えられたおかげだと今頃感謝して居ります。名簿を拝見してお懐しく存じました。不明の方や、明らかに違っている方の多いのは残念に思います。

六十五回昭二十八 八木(藤原)冨

昭和二十五年、はじめて高校となつた北野に入学を許された私達。あれからもう二十年。三十才も半ばを過ぎますとひとしお同窓の友がなつかしく思い出されます。一年の時の仲間、二年の時の仲間、三年の時の仲間、皆さんどうしていらしゃいますか五十才以上の方々の方がよく同窓会をなさっています。

六十五回昭二十八 笹本 国彦

卒業後十七年母校よりのたよりに少々おどろきました。一〇〇周年記念には是非参加したいと思っています。

① 昭和45年度一般会計報告

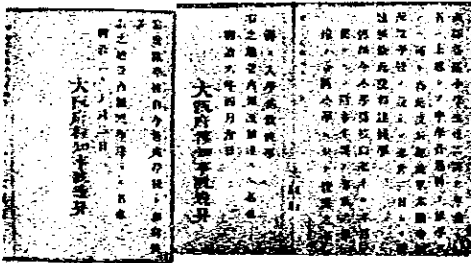
1. 収入	1,329,907円
前年度繰越金	604,651円
入会金	719,500円
利息	5,756円
2. 支出	270,743円
人件費	98,515円
通信事務費	20,035円
慶弔費	27,133円
旅費	26,920円
記念品料	7,000円
会議費	29,700円
図書購入費	2,940円
新会員入会祝	58,500円
3. 残高	1,059,164円

② 昭和45年度名簿及び会報会計報告

1. 収入	2,109,666円
前年度繰越金	969,554円
名簿売上金	318,300円
会報協力金	554,350円
会報広告費	250,000円
利息	17,462円
2. 支出	629,818円
会報印刷費	218,000円
郵送費	293,998円
事務費	117,820円
3. 残高	1,479,848円

③ 昭和45年度基金会計報告

1. 収入	1,814,488円
前年度繰越金	1,713,777円
利息	100,711円
2. 支出	0円
3. 残高	1,814,488円



学校だより

府下随一のプール誕生

事務長杉本二一

昭和十八年二月創立六十周年記念事業の一環として、生徒の勤労奉仕によって完成した竹筋入りの大プールは、既に時代ものとなって使用に耐えないままでいたんで、再三本庁と交渉の末、漸く四十六年度に於て次の通り府下随一のプールに更正誕生した。

旧プール撤去及び新築工事一式

一四四、三五〇、〇〇〇円

又昭和二十三年男女共学制実施によって、女子便所数が充足していなかった等について、弛まざる校長の努力によって百貨店の男女別便所四ヶ所を本館内に於いて竣工し（工費六、八六一、〇〇〇円）多年の懸案が四十六年度に於て一挙に、成就したことは本校にとつて喜びに堪えない。

創立記念日、四月二十日に変更

従来創立記念日は七月一日と定められていたが、四十六年度より、大阪府権知事渡辺昇の発令（上の写真）にもとづく設立日、明治六年四月二十日にちなみ、四月二十日を創立記念日にするにきまりました。

卒業式

昭和四十七年二月二十五日、第二十四回卒業式を行い新しい会員を迎えました。

なお当日、山本勝男常任理事が新入会員に対し親しみある歓迎のこたばを述べられました。

百周年を明年にひかえて

明年は愈々待望の百周年を迎える年であります。

今日までに、常任理事会、理事会その他種々の機会に承りましたご意見を整理してみますと次のようになります。

- 一、記念誌の編集
- 二、記念誌の編集
- 三、会報の発行
- 四、名簿の発行
- 五、学校の方で企画し編集の作業を進めております百周年記念の「校史」に対する購入等の協力

これらの計画に対する諸準備等は今年でも、順次すすめてきておりますが、今年は更に多々ご意見をおきすることもあろうかと思われまじし、いろいろ配慮しながらより本格的に具体的に推進して参りたいと思っております。会員諸兄姉の絶大なご協力をお願い致します。

第三号発行にあたって

お忙しい中を多数原稿をお寄せ下さった皆様にご心からお礼申し上げます。さて此度は百周年を目前にして手軽に発行出来ることを目標に、従来の体裁を少し変えて、四頁縮書きで編集し、「六稜会報」と致しました。何分不馴れな者が編集しましたので、至らない点が多々あること存じますが、会員の皆様方のご意見を承りつつよき会報と致したいと思っておりますのでよろしくご指導をお願い致します。今後の発展のため、皆様方の絶大なご支持とご協力をお願い致します。